



基本理念

私たちは、患者さんの人権を尊重し、
地域に必要な基幹的中心的な医療を
担当すると共に、さらに高次の医療に
対応できるよう努力します。

2014 Autumn Vol.039

編集：広報委員会・広報課

印刷：有限会社 アクト

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
TEL075-391-5811(代)

京都御苑（撮影 桐山豊三郎）



Index

専門医がお答えします－第35回 肝・胆・脾の外科治療について	2
知っ得情報コーナー	3
最新の放射線治療	
シリーズ チーム医療 ②	4
慢性心不全のチーム医療	
ナースの広場	6
感染対策チーム（ICT）の紹介	
連携医ネットワーク	6
当院の医師・職員紹介	7



基本理念

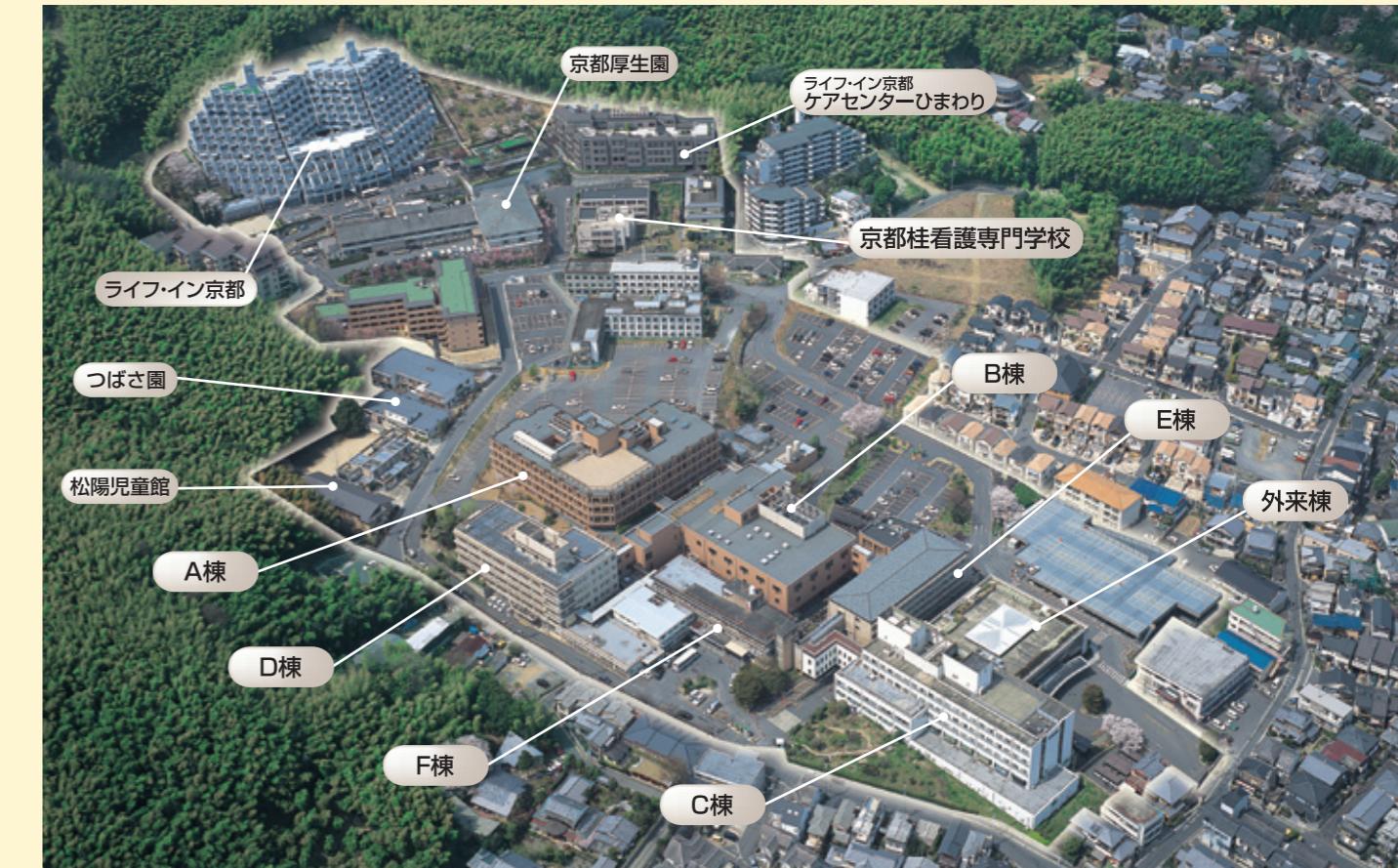
私たちは、患者さんの人権を尊重し、
地域に必要な基幹的中心的な医療を
担当すると共に、さらに高次の医療に
対応できるよう努力します。

2014 Autumn Vol.039

編集：広報委員会・広報課

印刷：有限会社 アクト

〒615-8256 京都市西京区山田平尾町17
TEL075-391-5811(代)



許可病床数

● 585床（一般525床：結核60床）

診療科目

- 一般内科・血液内科・脳神経内科・内分泌・糖尿病内科
- 腎臓内科・膠原病・リウマチ科
- 心臓血管センター（心臓血管内科・心臓血管外科）
- 消化器センター（消化器内科・外科）・乳腺科
- 呼吸器センター（呼吸器内科・呼吸器外科）
- 整形外科・形成外科・泌尿器科・産婦人科・眼科
- 耳鼻咽喉科・脳神経外科・皮膚科・小児科
- 緩和ケア科・精神科・リハビリテーション科
- ペインクリニック科・放射線科・麻酔科
- 透析センター・健康管理センター

● 京都桂臨床医学研究所（臨床試験センター）・保育所

併設施設

- 京都桂看護専門学校（全日制3年課程）
- 訪問看護ステーション「桂」

関連施設

- 西陣病院
- 京都厚生園
- 北野保育園
- つばさ園
- にしがも透析クリニック
- 京都桂川園
- 二条保育園
- 松陽児童館
- にしがも舟山庵
- 昭和保育園
- ライフ・イン京都



交通のご案内

市バス
73系統（京都駅～洛西バスターミナル）
29系統（四条烏丸～洛西バスターミナル）
69系統（二条駅西口～阪急桂駅東口）
「千代原口」下車、徒歩約10分

京阪京都交通バス
21、27系統（京都駅～桂坂中央）「千代原口」下車、徒歩約10分

阪急電鉄
京都線「桂駅」下車（西口）西へ約1.7km

病院専用送迎バス
阪急桂駅からは送迎バスを無料でご利用いただけます。
(約15分)





このコーナーでは、日頃皆さんが気にしておられる話題に、当院のスタッフが情報提供を行います。

最新の放射線治療

放射線科 治療部 部長 坂本 隆吏

放射線治療は、手術、化学療法と並ぶがん治療の「三本柱の一つ」です。放射線治療は手術と同じく、基本的に局所的な治療で、他の治療法に比べて体の負担が小さいといった特徴から、早期がんに対する治療を目指す根治治療から転移がんに対する緩和的な(症状を和らげる)治療まで幅広く用いられます。近年になり、三本柱のどれかを選ぶというのではなく、がんの種類・進行状況・全身状態により患者さんにとつて最適な治療法を組み合わせる「集学的治療」が注目されています。

当院では、昨年従来からの汎用リニアック1台の他に「三菱重工製vero4DRT」を追加導入しました。当院のリニアックを例に最新の放射線治療をご紹介致します。

vero4DRTは京都大学と神戸先端医療センター、三菱重工業が産学共同で2002年より共同開発を行った現在唯一の国産リニアックで、最新の高精度治療(画像誘導放射線治療(IGRT)、強度変調放射線治療(IMRT)、定位放射線治療(SRT))が簡便かつスピーディに行え、肺癌や肝臓癌のように呼吸で移動する臓器の病変に対しても、移動する病変を追いかけ治療できる「呼吸追尾照射」の機能を有しているリニアックです。

体の外部から高エネルギーの放射線をがんに向けて照射する体外照射の場合、どうしても病変の周囲の正常臓器にも放射線が照射されるため、有害事象はある程度は避けられません。有害事象を少しでも少なく、病変への線量集中性を高めるため、IGRT、SRT、IMRTなどの高精度治療が考案、実用化されました。

従来のリニアックでは体表に描いたボディマークを目印に位置合わせをしなければならず、治療計画分広い目に照射を行う必要がありました。がん治療が考案、実用化された。

vero4DRTは最新のIGRT機能を搭載してお

り、照射前にX線透視やCBCTで骨や臓器の位置を補正することにより、ミリ単位での高精度な位置合わせが可能となり、今までの治療計画よりもマージンを狭く出来るために、有害事象の軽減と病巣への線量集中性が増すと期待されています。

定位治療(SRT)とは病巣に対して多方向から放射線を集中させ、ピンポイントに照射する治療のことで、治療する部位がずれてしまつて、病変が治らないばかりではなく、余計な正常組織に障害を与えてしまうため、精密に病変を捉え、精度良く治療ができることが必須となります。そのため、例えば脳の治療の場合は従来のガンマナイフ治療では頭蓋骨にピン留め固定を行う必要がありますが、veroでは頭にピッタリと合った特殊なマスクを作成することで同等の精度を確保でき、治療毎にマスクを被るだけの侵襲性の少ない治療が可能となっています。また病変と正常組織が近接している場合、数回に分けて治療を行うことで、正常な組織にあたる放射線線量を下げて病変への線量を上げることも可能になっています。

では複雑な形の病変で、SRTでは十分に周囲の正常組織の線量が下げられないときはどうするのか。その場合はIMRTという照射法を使います。従来の治療では治療ビームは単一の強さでしたが、コンピュータ制御でMLCという可変絞りを複雑に動かすことで、治療ビームの強弱を変化させ、病変の形にフィットし、正常組織の線量を低下させることができます。

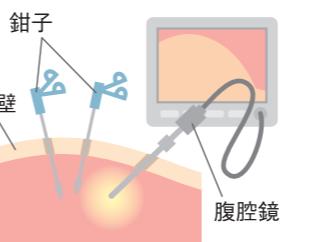
行っていますが、非常に呼吸性移動が大きい腫瘍については、呼吸追尾照射を行っています。金属マーカーを腫瘍周囲に留置し、そのマーカーをveroで検知することで、腫瘍の動きに合わせて治療ビームが動き、追尾を行う仕組みです。放射線治療中は通常は自由呼吸下で行いますので、通常は腫瘍の移動距離を含んだ広いマージンをつける必要がありますが、追尾照射を行うことで、病変への線量集中性を高め、正常組織への線量が抑えられることが可能になります(図3・肝臓SRTの線量分布図、図4・呼吸追尾中のマーカーの動き(緑色))。

当院では2014年1月より肺、肝臓などへの定位治療(SRT)が開始、2014年6月に強度変調放射線治療(IMRT)の施設認定を得ました。また2014年7月からは肝臓への呼吸追尾による定位治療(SRT)も開始しております。放射線治療は専従の2名の放射線治療医のほか、専従の放射線

品質管理士、放射線治療認定技師を含む5名の技師と1名の医師物理士、がん放

射線治療看護認定看護師が携わっています。

腹腔鏡手術イメージ



当科では腹腔鏡手術に力を注いでおり、9名中4名が内視鏡外科学会の技術認定を取得しています。胆囊摘出術は、高度の胆囊炎に対する緊急手術でもほぼ例外なく腹腔鏡で完遂し、昨

年1年間で開腹を要したのは132件中4件のみです。脾臓についても、尾側の手術は胃や大腸で培った技術を応用すれば安全に施行できますので、昨年は6件の脾体尾部切除術と1件の脾臓摘出術の全てを腹腔鏡で行いました。また肝臓の手術のうち、部分切除や外側区域切除などに腹腔鏡手術の適応を広げて、昨年は腹腔鏡下肝切除を13件行いました。

肝臓や胆道、脾臓の疾患に対する手術は、疾患の種類や病

名)、肝胆脾外科高度技能指導医(1名)を始め、消化器センター内で内科と外科、放射線科(診断、治療)、病理診断科が緊密に連絡をとり合い相談しながら、一人一人の患者さんを念入りに検討し、よりよい治療を求めて愚直に努力を続けております。

例えば、初発の原発性肝癌に対する手術では、部分切除で腫瘍だけ切除するのではなく、転移が隠れているかもしれない領域を含めてしっかりと切除する系統的切除を行うことで予後の向上に努めます。

たる医療(1名)を始め、消化器センター内で内科と外科、放射線科(診断、治療)、病理診断科が緊密に連絡をとり合い相談しながら、一人一人の患者さんを念入りに検討し、よりよい治療を求めて愚直に努力を続けております。

最近稼働した放射線治療施設



三菱重工製 vero4DRT

※詳しい放射線治療については、次頁に掲載しております。

診療部門より

来年度には高度技能専門医修練施設の認定を目指しています。

京都市西方の肝胆脾診療の中核施設として機能出来るよう、後進も育成しつつ、引き続き診療体制の充実を図っていきます。

肝・胆・脾の外科治療について



消化器センター
外科 副部長
西 隆 太

巢の位置、広がり、治療目的などによって、多数の選択肢から最善の術式を決定しなければいけません。ひとたび合併症があると重症になりかねない領域です。良い手術を行うためには、経験、精密な術前診断、適切な術前処置、念入りな手術デザインなど、手術に至るまでに多くのステップが必要になり、さらに予定した手術を確実に行う技量も要求されます。肝臓専門医

医(1名)と胆道学会指導医(1名)、肝胆脾外科高度技能指導医(1名)を始め、消化器センター内で内科と外科、放射線科(診断、治療)、病理診断科が緊密に連絡をとり合い相談しながら、一人一人の患者さんを念入りに検討し、よりよい治療を求めて愚直に努力を続けておりました。進行した脾臓癌に対する十分な知識と治療経験、精密な術前診断、適切な術前処置、念入りな手術デザインなど、手術に至るまでに多くのステップが必要になり、さらには胃や大腸で培った技術を応用すれば安全に施行できますので、昨年は6件の脾体尾部切除と1件の脾臓摘出術の全てを腹腔鏡で行いました。また肝臓の手術のうち、部分切除や外側区域切除などに腹腔鏡手術の適応を広げて、昨年は腹腔鏡下肝切除を13件行いました。

肝臓や胆道、脾臓の疾患に対する手術は、疾患の種類や病名)、肝胆脾外科高度技能指導医(1名)を始め、消化器センター内で内科と外科、放射線科(診断、治療)、病理診断科が緊密に連絡をとり合い相談しながら、一人一人の患者さんを念入りに検討し、よりよい治療を求めて愚直に努力を続けておりました。進行した脾臓癌に対する十分な知識と治療経験、精密な術前診断、適切な術前処置、念入りな手術デザインなど、手術に至るまでに多くのステップが必要になり、さらには胃や大腸で培った技術を応用すれば安全に施行できますので、昨年は6件の脾体尾部切除と1件の脾臓摘出術の全てを腹腔鏡で行いました。また肝臓の手術のうち、部分切除や外側区域切除などに腹腔鏡手術の適応を広げて、昨年は腹腔鏡下肝切除を13件行いました。

肝・胆・脾に対する十分な知識と治療経験、精密な術前診断、適切な術前処置、念入りな手術デザインなど、手術に至るまでに多くのステップが必要になり、さらには胃や大腸で培った技術を応用すれば安全に施行できますので、昨年は6件の脾体尾部切除と1件の脾臓摘出術の全てを腹腔鏡で行いました。また肝臓の手術のうち、部分切除や外側区域切除などに腹腔鏡手術の適応を広げて、昨年は腹腔鏡下肝切除を13件行いました。

肝・胆・脾に対する十分な知識と治療経験、精密な術前診断、適切な術前処置、念入りな手術デザインなど、手術に至るまでに多くのステップが必要になり、さらには胃や大腸で培った技術を応用すれば安全に施行できますので、昨年は6件の脾体尾部切除と1件の脾臓摘出術の全てを腹腔鏡で行いました。また肝臓の手術のうち、部分切除や外側区域切除などに腹腔鏡手術の適応を広げて、昨年は腹腔鏡下

